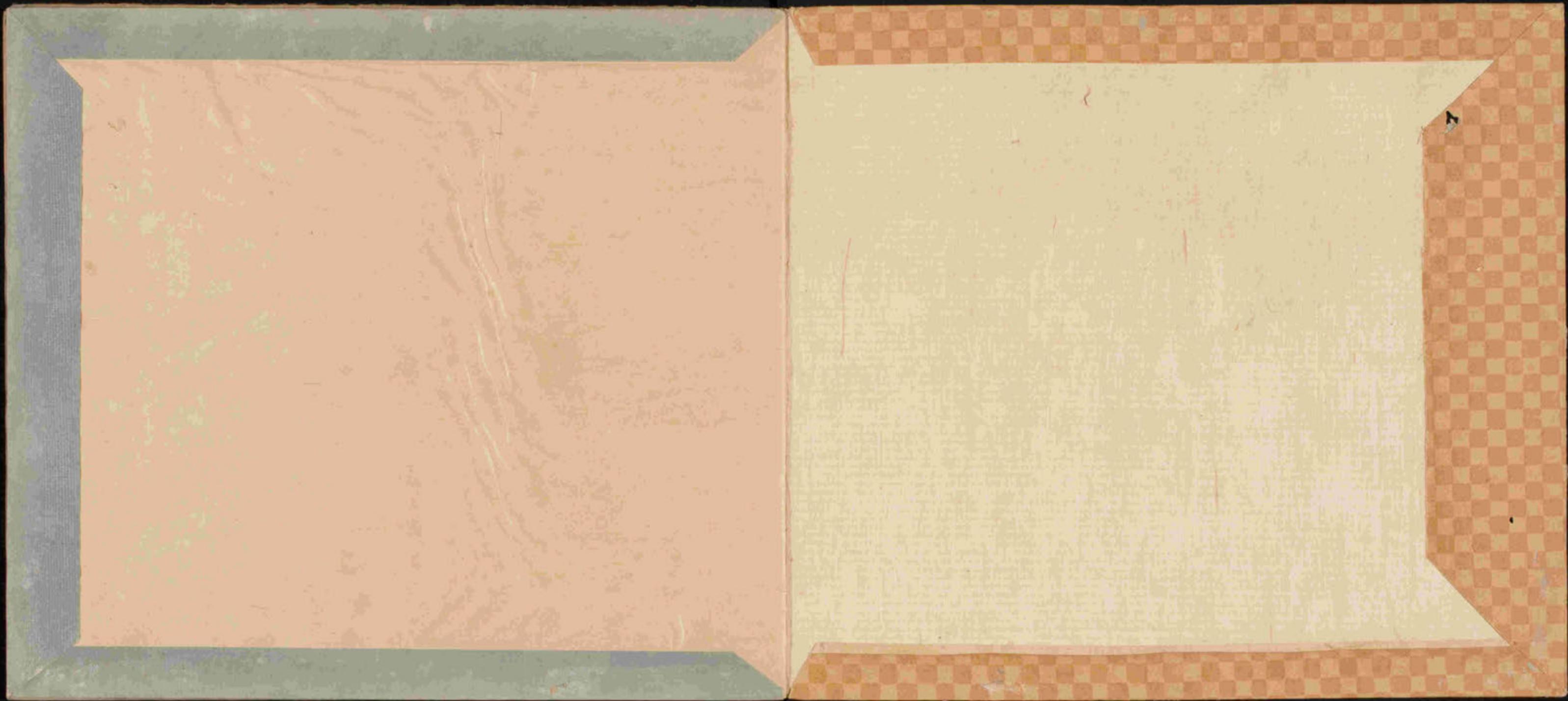


古今集序

第十註



古今和歌集序註并十



世外の人々へてはるるいふは  
うゝのいひをりあふはるる  
事案のいふはるるいふは  
りひてはるるいふはるる

世外の人々へてはるるいふは

これ外の人々へてはるるいふは

あつこいふはるるいふは

在京元方 曰棟梁 曰儀

素心 貞静 鳥風



貞樹

敏行

晴臣

信行

千里

涼養父

是則

駒石大庄

常石大庄

兼均

神對

閑院

し任家

回岐

右神回香

竈

之國町

三条町

貞父百帝

列樹

春風

大勲

畧汝の衆人くふくわくまのり親之入

はまろろくく博のこまのし母まのし後

人の多しの中をいんそれを事

にいんそや奇とあをなひてそいあ

ろくろろりくくやまのの奇れ六首

六射はろくろはわくかとすい

風月日詞はろくろてキろを

く多の奇くく世信誠論れたる

はしてろくろ知てろくろ小教誠の語

まろり中はろくろりば奇くあこ思

てろくろまぬろくろろろくろ

同くろやゆきろくろくろくろわろ

くろ奇くろくろ集れ巻双よの合と

して元方れ奇くろ合まや

卷之奇詞凡情乃得不得以も  
くふ言おしてさあかあか  
しんふ人かかた人の奇もあ  
かよはあかか元方れ奉の向れ  
奇を人元れ何んくく奇に  
集れんりり奇もて何りあ  
男といんの奇やぬ表人  
くふ今もくくくあの下  
さくくくくくくくくく  
ちりちり

くふ今もくくくあの下  
さくくくくくくくくく  
あきくくく延喜れ御事  
わめりくくくくくくく  
治事也くくくくくく  
くく時西考也く夏秋  
くくくく四時一年く九廻  
くくくくくくくくく  
くくく延喜れ御事  
位寛平九年七月

らるるに寛平十年八月廿六日  
改元ありて昌泰元年とす  
寛平九年八月廿六日  
昌泰三年  
延喜六年といふ九年に當りて昌泰  
一書之由代記亦とらん寛平九  
年の年より延喜五年といふ十年  
の年より寛平二年といふ昌  
泰三年といふ延喜六年といふ  
十年といふとすといふ人ありて  
此書にありてと寛平八月十六日

改元ありて昌泰元年といふ  
九年の年より一年といふ  
中規之四時年各三分減とす  
つとすまも夏秋の過て冬時  
四つ物各三分減といふ  
四時年各三分減といふ  
四時心惣秘んといふ  
あつて御つらうといふ  
かまはるる

しん廣大を過れ御ありて

政道也。嗚呼。君主聖とて  
まてた。海の中。日本國の外と  
し。や。居。び。え。大。唐。の。舞。う。ん。の  
聖。王。よ。て。海。し。と。云。ま。れ。わ。り  
可。新。花。百。所。う。舞。よ。て。ま。ね。を  
云。也。仁。ま。さ。う。け。う。ん。後。也  
日本國の。の。舞。う。ん。の。舞。う。ん  
日本國の。の。舞。う。ん  
ひ。り。り。の。舞。う。ん。の。舞。う。ん  
ま。り。り。の。舞。う。ん。の。舞。う。ん

延喜を帝の賢王とて著  
し。り。の。舞。う。ん。の。舞。う。ん  
大。唐。の。舞。う。ん。の。舞。う。ん  
六。十。代。は。の。舞。う。ん。の。舞。う。ん  
の。舞。う。ん。の。舞。う。ん  
皇。也。延。喜。の。舞。う。ん。の。舞。う。ん  
の。舞。う。ん。の。舞。う。ん  
の。舞。う。ん。の。舞。う。ん  
の。舞。う。ん。の。舞。う。ん  
の。舞。う。ん。の。舞。う。ん  
の。舞。う。ん。の。舞。う。ん  
の。舞。う。ん。の。舞。う。ん



後京極長政大政大臣後孫

長政公御孫長政公御孫

長政公御孫長政公御孫

又長政公御孫長政公御孫

長政公御孫長政公御孫

長政公御孫長政公御孫

真名席之仁流秋津例之外

惠若流波山之陰側夏為懶

之声兼之四口破長為殿頭詳

詳滿耳思繼既絶之風欲真之

廢之道

長政公御孫長政公御孫

長政公御孫長政公御孫

長政公御孫長政公御孫

長政公御孫長政公御孫

長政公御孫長政公御孫

長政公御孫長政公御孫

長政公御孫長政公御孫

長政公御孫長政公御孫

長政公御孫長政公御孫

瀛子の内大臣高藤の沖原より  
十三歳よりして沖原に任治す下中  
世三年よりしての善政延喜格十  
二巻の式の中巻より記す末の  
世よりしてありきしよよりしてし  
大原野の年より延喜格將統  
中へ將衣より銘手記すして腹巻  
より矢角じのころよりしてし  
沖原よりして沖原よりしてし  
かきしか時平の太刀とて神とて

後醍醐天皇の御代よりしてし  
天神平院を太刀時平自信と  
らんとてししよりしてし天神  
紀綱を善相公とて和弁通よりしてし  
忠貫之を別躬恒忠公とてし  
從より益信正實相應寛貴よりしてし  
平より久果よりしてし下照より  
しゆりわよりしてし  
蓋信尊よりしてし  
の風俗よりしてし

撰集らんて後拾遺ししては余は  
ゆつらゆつ時万葉集は集むるに  
しりしは海もついでにみよる集を  
撰む申と後よりらるは時帝れ  
詔りて是より中は集むるに  
しりて是より後にも拾遺ししては  
集れ後をにほしつてはる作  
付ては後集を撰てせらたこと  
とある國のりて後集は集むるに  
集むる

同云政をいふものには後より  
の中は拾遺を撰むるに  
尋常の海のりてはる集むるに  
しりしは海もついでにみよる集を  
撰む申と後よりらるは時帝れ  
詔りて是より中は集むるに  
しりて是より後にも拾遺ししては  
集れ後をにほしつてはる作  
付ては後集を撰てせらたこと  
とある國のりて後集は集むるに  
集むる



こゝろのむすべしん

延喜六年四月十八日との世集撰を  
ふと作せしむるに日よはあつた撰  
果て上候しり日也大内記紀前刻の  
賢之舎兄也抄書所領賢之いん  
中や抄書おとりの信原殿傍より  
儒者わつり可也南時不定、甲斐  
小月凡は角躬恒深路入撰也石橋の  
府生之忠幸の定國大内記随力也  
撰るれ勅宣はむり中を信せし

書らや一口集集よりの弄紙い  
うのをもは今の集は撰入るを  
申紙云也凡撰るる又ふし弄也凡撰  
りてはあつたのりあつた人の撰  
者り弄をももあつたのり集り  
いふりあつたのり別り弄り四十七卷撰入  
り九十七卷撰外撰弄一巻撰以弄  
一巻也躬恒の弄り中は角異平の弄り  
み書しむる忠奉り弄り四巻撰外撰  
弄一巻撰あつたのりあつたのり

ほしむらぎいりしうららけは集  
千鳥は懐くそく申書り時上覧り  
時天気がよくなりて四人は撰ぶの奇を  
九十鳥まで今とせしは一千九  
十三鳥は集はらば

まじり梅をうらみりしめて

東三条花大伝常々云

萬りるふふよてぬ梅の花

あつてりまんゆひらうやを

ほしむらぎいりしうららけ

伊勢の奇云

わ月にはるるふららん時を

ほしむらぎいりしうららけ

りらむらぎ

東にほゆの奇云

お葉は神のまへてすらすらん

社にうらむらぎいりしうららけ

高はらんかよひらむらぎ

紀勢の奇云

お葉は神のまへてすらすらん

定むるはまはるはるはるはる

ふりふりふりふりふりふりふり

ふりふりふりふりふりふりふり

付てははるはるはるはる

ふ鶴のののののののののの

在原はるはるはるはる

はるはるはるはるはるはるはる

あつたはるはるはるはる

秋秋夏夏はるはるはるはる

秋秋はるはるはるはるはるはる

いしはるはるはるはるはるはる

夏草はるはるはるはるはるはる

はるはるはるはるはるはるはる

こゝ恋はるはるはるはる

あつたはるはるはるはるはるはる

難波万雄離別はるはる

あつたはるはるはるはるはるはる

あつたはるはるはるはるはるはる

素性法師新旅はるはる

あつたはるはるはるはるはるはる

おまけのわらわりの神楽のうた

わらわりの夏秋のうたのうたのうたのうた  
をらんらんらんらんらんらんらん

小節のうたのうたのうたのうた

うらやまのうたのうたのうたのうた

ゆりやうらやまのうたのうたのうた

のうたのうた

うらやまのうたのうたのうたのうた

百とわが集りて

とておまけのうたのうたのうたのうた

うらやまのうたのうたのうたのうた

春のうたのうたのうたのうたのうた

のうたのうたのうたのうたのうた

蕪蕪のうたのうたのうたのうた

人まじり 表儀のうたのうたのうた

雑舞のうたのうたのうたのうた

うらやまのうたのうたのうたのうた

うらやま

わらわりのうたのうたのうたのうた

わらわりのうたのうたのうたのうた

し世をえりしはてとほ友介撰  
ころし時ほまほせのけのく集の  
あや山下水のきまほく人申  
みくま

くはひりたりのまへしはつた  
た初ハ清れりたの敷なるしはく  
よ集よ多くへかたはりあは  
ふしとらり  
ら古きと

長濱のりたの敷をみよら

あはひりるりしはつた  
も身なりぬらりしはつた  
あはひりるりしはつた  
あはひりるりしはつた  
あはひりるりしはつた  
あはひりるりしはつた

あはひりるりしはつた  
あはひりるりしはつた  
あはひりるりしはつた  
あはひりるりしはつた  
あはひりるりしはつた



奇・かゝるゝのいさゝりと云  
位等詞女春花之艶名竊烟  
夜之長况辛追恐時俗之朝  
更不藝也松

鳥多席能多席曰ん

まれひ〜まらめ

世詞ハ古ク云

心〜まれ〜  
心〜らり物なりん

吹凡のまれ〜の語

きらめ〜人〜

啼麻れたる〜  
れ〜して世中れ時〜  
らん〜のひか〜

世詞ハ古ク云

啼麻れたる〜物なりん  
人〜れれ〜

賢之太〜人〜  
〜詞〜  
あひ〜

浄代より後ありひて今世集を撰  
くを後申よりあきてはしむん  
んろしれ考よまし入の申とあり  
うひわしとぞまゐり序乞遍遇和  
考うく申真以樂吾隨之取也  
人元うくまゐりしとまゐり申と  
ありとあり

此詞人元うくあて後うたえく後  
まゐりしとまゐり今聖御つら  
浄代よりありて後ありとあり

人元はよあそしとらしとあり  
とありとありしとありしとあり  
しとありまゐりしとありしとあり  
明王代よりあてしとありしとあり  
しとありしとありしとありしとあり  
ハキ文をいふしとありしとあり  
くを此の申とありしとありしとあり  
九いしとありしとありしとありしとあり  
よあてしとありしとありしとありしとあり  
通しとありしとありしとありしとあり

嗚呼人凡既没和乎不在斯哉

論語云父王既没父不在

斯哉此世人也

たゞし時うつるとしきりたのらん

あひひゆさうまもいれうり

わろや

是と時代とたゞし未だうり

とも世を道とゆさうと云

文もは父と文と道とたのひ

れしひゆさうまもいれうり

はさしてれしひゆさうり代さ

とも昔うゆさういゆさう

えうり古文者経の秦始也

時禁文儒をいりりたはれ

るうゆんをいりて壁れうた

そゆり昔の漢武帝の時建

えうり何何王子えり

いゆさう世もいゆさう

まゆりもいゆさう

世利の古き

歌者信梅咲かこはる物り  
いよほく啼きまうくひか  
ほくさくんとてれしとやす  
かほあわん申はいんそせ  
たうまてらうせく

く詞の音位は世々の語り  
しん中ばえ親のつとせ  
あかりて来しとあが時  
はるらわねんわん  
か世有りうらりや

かよてらうせく  
しん集はげよあ  
申はえん中ばらうか  
あの中古き  
いよほく啼きまうくひか  
か世有りうらりや  
あ世有りうらりや  
あ世有りうらりや

あ鳥のたの筆うほせも  
あ世有りうらりや

わあさくら流きんて物く申し  
こぞきりうらむさか申らふ  
ふりてくさちうら〜久〜  
申は世まじ流ききうた世ま  
の流きはあふらきし〜  
古き〜

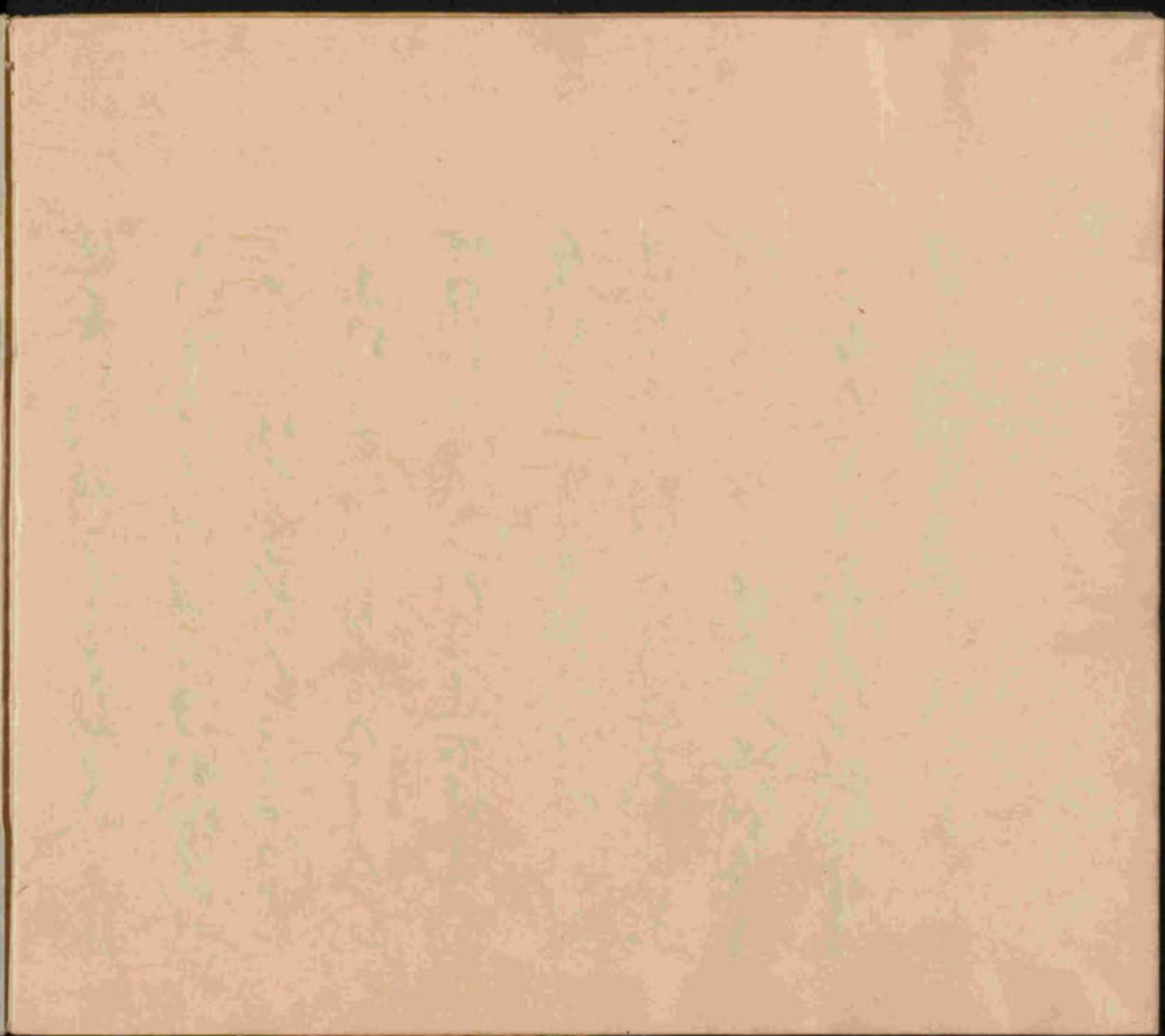
何中た〜  
久〜  
わ〜  
ちの流きも人〜

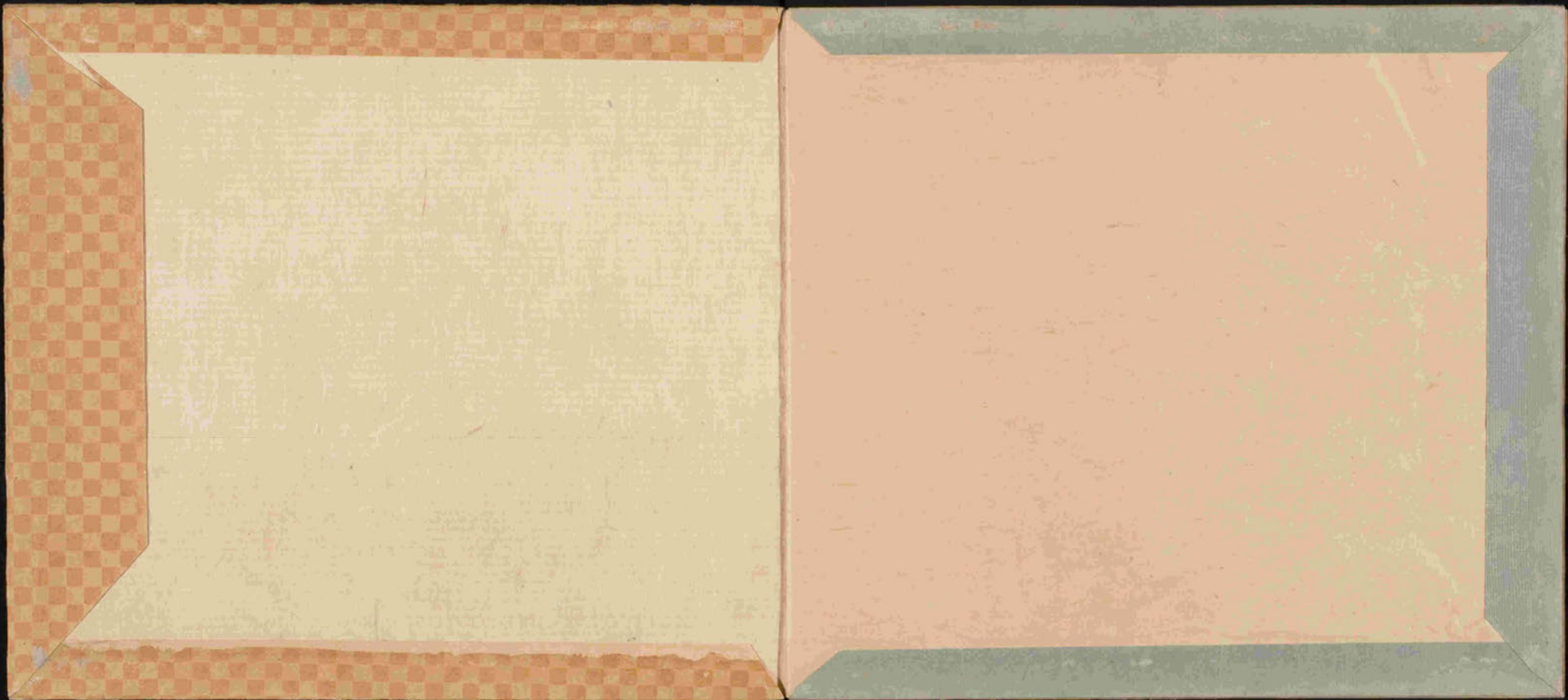
わあさくら〜

きりうら流き〜  
人〜  
い〜  
きりうら流き〜  
人〜  
〜  
〜  
〜

文選席乞娘ていごうく籍孔しやくこうええ書  
興日月きげつ俣ま懸か見み仲ちゆう争まが奥おく







110X  
341  
10